

永遠の夏に、
彼らは光を呼吸する。

オーファンス "ブルース"

忘却の予感と共に、旅路をゆく女。
誰かをひたむきに思い続ける彼らの姿を映し出した“希望”のロードムービー

村上由規乃 上川拓郎 辻風子 佐々木詩音 窪瀬環 吉井優

監督・脚本・編集：工藤梨徳

撮影：谷村咲貴 録音：佐古瑞季 照明：大崎和 美術：柳芽似 プロムムアン・ソムチャイ
衣装：西田伸子 メイク：岡本まりの 助監督：遠藤海里 小森ちひろ 制作担当：池田有宇真 谷澤亮

2018/日本/カラー/16:9/5.1ch/89分 配給・宣伝：アルミード



第40回びわ湖フィルムフェスティバル
グランプリ
ひかりTV賞

なら国際映画祭2018
NARA-wave学生映画部門
ゴールデンKOJIKAWA賞・観客賞

第19回TAMA NEW WAVE
ベスト女優賞

横浜インディペンデント
フィルム・フェスティバル2018
Cinefil賞

スペイン
FILMADRID2019
正式出品

くまもと復興映画祭
正式招待

京都デジタル
アミューズメントアワード
松竹賞

夏が永遠のように続く世界で生きるエマ。

最近、物忘れがひどい彼女はノートを手放さず、家にもあらゆるメモを貼っている。

そんなある日、彼女の元に、孤児院時代の幼馴染であり現行方不明のヤンから象の絵が届く。

エマはその消印を手掛かりに彼を探す旅に出た。

道中で彼女は、ヤンと同様に幼馴染であったパンに邂逅し、その恋人であるユリとも知り合う。

タヒチへ高飛びする計画が失敗した彼らは、ずるずるとエマの旅についていくこととなる。

その一方で、エマはヤンへの思いを募らせ、また自らの記憶の喪失が加速していることを恐れ始めていた…。

「夏は終わったのではなく、死んでしまったのではないだろうか？」
寺山修司

異常な高温が続き、誰もが汗ばむある夏の日々を描いた本作は、寺山修司著書の一節から着想された、当時22歳の女性監督が手掛けた渾身のロードムービーである。

第40回びあフィルムフェスティバルにてグランプリ・ひかりTV賞を獲得後、なら国際映画祭学生部門NARA-waveではゴールデンKOJIKAWA賞と観客賞をダブル受賞など、数々の映画祭を席卷した珠玉の作品。こぼれ落ちていく記憶と対峙する主人公エマを務めるのは、「赤い玉、」や「クマ・エロヒーム」で圧倒的な存在感を放つ村上由規乃。第19回TAMA NEW WAVEにてベスト女優賞を本作で獲得し

た彼女の演技は、各地で絶賛の嵐を巻き起こしている。エマを受け入れ、共に生きていこうとする少年パンのはつらつとして時に切ない姿を演じた上川拓郎、そして脇を固める役者陣の圧巻した演技にも目が離せない。

“観る人を日常から連れだしていく映画”を目指した本作。アジアの異国を思わせる中華街や市場、そして鮮やかな新緑の草原など彼らの旅路を彩る様々なロケーションもこの映画の魅力の一つである。日本の見慣れた街並みから外れた“無国籍”な雰囲気を取り巻くこの世界で、私たちは彼らの愛、そして希望を目撃するだろう。



★映画界の素晴らしい未来への希望がここにある。

この作品に関わった全ての方々に、心からの賞賛を送りたい。—— 永瀬正敏(俳優)

★「さすらいの青春」は死語だが、その実態であるエゴは永遠に美しい。その永遠に「オーファンズ・ブルース」は不可能な1ページを書き加えた。

—— 青山真治(映画監督)

★剥き出しで痛々しくも優しい愛のカタチをスケッチしたせつない映画だった。

独自の映画センスは私の心を射抜き、いつか見た懐かしい場所に連れて行ってくれた。

—— 行定勲(映画監督)

村上由規乃 上川拓郎 辻風子 佐々木詩音 窪瀬環 吉井優

監督・脚本・編集：工藤梨穂

撮影：谷村咲貴 録音：佐古瑞季 照明：大崎和 美術：藤芽似 プロムアン・ソムチャイ 衣装：西田伸子 メイク：岡本まりの 助監督：遠藤海里 小森ちひろ 制作担当：池田有宇真 谷澤亮 2018/日本/カラー/16:9/5.1ch/89分 配給・宣伝：フィルム・ドット

